

令和7年度 第2回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日 時 令和7年8月8日（金曜日） 14時から16時まで

出席者 吉川委員、稻垣委員、神作委員、芝委員、修理委員、高江洲委員、辻委員、蛭川委員
藤田委員、古橋委員、横田委員

欠席者 なし

傍 聴 7名

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長 他4名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none">・資料確認 <p>次第</p> <p>資料1 令和7年度相談支援従事者指導者養成研修（国研修）受講報告</p> <p>資料2－1 令和7年度第2回相談支援従事者研修検討会検討チーム報告</p> <p>資料2－2 相談支援専門員役割割紹介</p> <p>資料2－3 現任研修用陽介さん事例</p> <p>参考資料1 令和7年度サービス管理責任者等国研修プログラム案</p> <ul style="list-style-type: none">・本日の検討会は、記録のため速記の方が参加をし、録音をすること、傍聴者がいることについてもご了解いただきたい。・資料の公開について、検討会設置要綱資料の2の7の規定により、議事録及び資料は公開することになっているが、本日の出席委員の議決により、非公開ということもできる。公開の場合、東京都心身障害者福祉センターのホームページで掲載するがよろしいか。
各委員	(了承)

2 検討事項

（1）令和7年度相談支援従事者指導者養成研修会（国研修）受講報告

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none">・一人3分程度で国研修受講者と事務局より報告いただきたい。なお、地域づくりコースに参加の田中さんの報告については、書面を確認いただきたい。・では事務局からお願ひする。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・受講報告の前に、9月に実施されるサービス等管理責任者指導者養成研修のうち、専門コース別研修に該当する日の参加予定者について報告する。この研修は、相談支援専門員とサービス管理責任者双方の参加が可能なことから、本検討会委員に希望を確認し、意思決定支援コースに辻委員、障害児支援コースについては、今年度、専門コース別研修（障害児支援）の講師として登壇いただく荒川区障害者基幹相談支援センターの林田五月さんが参加することになった。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・続いて、令和7年度相談支援従事者指導者養成研修、自治体コースの報告をする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・6月4日から6日までの3日間、日本橋にあるTKPガーデンシティにて行われた。昨年度と同様、コースはケアマネジメント基礎、地域づくり、人材育成、自治体職員コースの四つ。1日目は全体講義、2日目と3日目午前中はコース別、3日目午後は全体で各コースの振り返り、最後は都道府県ごとに各コースで学んだことや、研修とのつながりについて共有を行った。 ・全体講義については、受講報告をご覧いただきたい。全体講義を通して、連携が一つのキーワードだったかと思う。幼齢期から高齢期まで1人の人生を支えるうえで、障害福祉サービスだけでなく、介護保険、教育、医療、地域のインフォーマルな支援まで幅広い制度や支援者との連携の重要性が繰り返し強調されていた。 ・自治体職員コースは、相談支援の基礎的理解、法定研修の質の向上、相談支援体制の整備と強化という軸で、講義または東京都と和歌山県の取組事例の発表、事前課題で取り組んだそれぞれの都道府県の人材育成ビジョンや、育成体系、管内の体制整備に関する取組について、共有し意見交換を行った。 ・連携という観点では、研修検討委員や研修チームの皆様と一緒に研修をつくり上げができるという強みを改めて実感した。また、相談支援体制整備や社会資源の開発については、地域の実情に応じて関係機関が十分に機能を果たすことができるよう、管内の連携が大切だと改めて感じた。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、ケアマネジメント基礎コース、辻委員、芝委員の順で報告をお願いしたい。
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント基礎コースでは大正大学近藤先生の講義の中で、今回初めてBPSモデルや近藤式といわれるニーズ整理表に触れた。検討会でも、東京都でこれを導入していない経緯等は聞いたが、近藤式に触れてみて、情報とアセスメントを分けて考えることや、相談支援専門員として、アセスメントから根拠や仮説を持って方向を考えること、それらをプランに落とし込んでいくことは、とても大事な視点だと感じた。 ・近藤先生からは、国研修では近藤式を推し進めているが、東京都では移行していないので、依頼があれば検討委員等に向け、同じような講義ができるという話をいただいた。今すぐに、東京都の研修を大きく変えたいということではないが、近藤式の話を聞いたことがない委員もいると思うので、まず近藤先生の話に実際に触れて、エッセンスを取り入れ、何かを変えるきっかけづくりに取り組みたいと感じた。
芝委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、同じコースに2名参加可能となり、辻委員と2名で参加したことでの、研修後も折に触れて話をすることができとても良かった。 ・先ほど、辻委員から出た内容にはなるが、近藤式について初めて知る中で、やはり根拠や整合性はとても大事だと思った。初任者研修でも、なぜそれが理由になるのか、情報とアセスメントと支援課題と支援プラン、それぞれの整合性が取れていないと駄目だよねというところが研修の中でも出ていたし、それが

	<p>そのまま初任者研修等でも確実に必要だと思うので、そこは活かしていきたいと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、研修の中で出てきたが、初任者研修を受講後、現任研修受講まで、長い人だと5年間空くので、それをしっかりと見据えた計画が今後必要だろうという話しがあった。特に意思決定支援については、それぞれが持つイメージではばらばらに行われている状態なので、5年後の現任研修を待つのではなくてその間の仕掛けをどんどんしていくことが必要なのではないかということ。それはとても強く感じたので、専門コース別研修に限らず、何らかの形で研修は必要なのではないかと感じた。 ・また、先ほども話題に出た整合性については、すぐに今の研修の中に取り入れられるかと思ったが、研修の手法について近藤式をどういうふうに取り入れるか、取り入らないのか、そういう意味も含めて、一度研修全体を見直すタイミングが必要ではないかと感じた。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、地域づくりコース、稻垣副委員長からお願いしたい。
稻垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりコースに現任研修協力者の田中さんと一緒に参加した。 ・地域づくりコースについては、ファシリテーターの役割、法定研修における地域づくりと自立支援協議会の活用及び効果的な運営の運動について考えるという内容に取り組んだ。 ・今回、岡山県、大分県、徳島県などの方と同じグループだったため、実際に地域づくりが目指すことが全く違うというのを実感した。今回の研修会場であった中央区について、「こんなところで相談支援をしている人はいないのではないか」という話しがグループ内で最初にでたが、私にとってはまさに実践をしている場で、地域づくりの目指すところが違うことを実感した。 ・例えば、中央区のように、何回もインターフォンを押さないと、訪問先にたどり着かない地域と、沖縄県のように窓が開いているとか、新聞が詰まっているとか分かる地域では地域づくりの目指す方向自体がとても違うというところは、実践して分かってきた。ただそれを小さな視点に置き換えると、東京都の中でも同様に、中央区と市部では全然違うというところもあり、地域づくりについてどのように研修をとおして働きかけをしていくのかについて、改めて考えさせられるような研修だった。 ・また、グループスーパービジョンの進め方について、デモンストレーションを見た際、一問一答で行う方法と、質問だけを一斉に投げかけ、それを回答する人が整理、取捨選択をして回答をする方法があるということに気づいた。これは今後、現任研修に取り入れていくこともできるのではないかと思った。 ・現在、現任研修と演習指導者養成研修を担当する中で、地域づくりと、ジェネラリストの養成が密につながっているということを、今回の研修で改めて実感したので、今後の研修で発信していくこうと思っている。 ・田中さんの報告書にあるが、企画力を養う視点というところがとても面白かつ

	<p>たと話されていて、どう具体的に解決に導くかという視点を、今後研修に導入できたら良いのではないかとのことだった。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、田中さんが一番、研修で印象に残ったのは、岡部氏の報酬改定に関する講義の中での、経営者の意識として「計画相談は赤字」だということではないという部分で、今後ご自身でもこのようなことを発信していきたいとのことだった。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成コース、神作委員からお願いします。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> まず事前課題として、各自治体の人材育成ビジョンを持ち寄るということがあった。東京都は「私たちが目指す相談支援専門員の姿V e r . 8」を持参しグループワークで使用したが、ポイントが押さえられており、どのように相談支援専門員を育成し、何を目指しているのかがとても分かりやすいというやりとりがグループの中ではあった。作成していない自治体があつたり、逆に20～30ページというページ数になっている自治体があつたりして、そのように考えると、東京都のA4、2枚に見やすく視覚化されて、まとめられているものは大変意義があるということと、これからもきちんとこれを活用しながら、場合によっては、バージョンアップをしながら、そのときに必要なものを考えていくべきだろうと考えた。 人材育成コースは、まず自分自身がスーパービジョンができるようになるということと、それを伝達研修としてどう伝えていくかという、この2点が主な目的となっている。 スーパービジョンは、人材を育成することが目的であるとうたわれているが、それを実感できるようなこととして、人が成長するには経験が70%、他者からの指導・指摘が20%、研修（O F F – J T）などが10%ということが、理論的に明らかになっているという話しがあった。 この経験については、意図的な経験をさせなければならないが、他者からの指導20%、研修10%というのは、S Vがとても役に立つ部分になる。当然、S Vだけで人が育つわけではないが、どこに着目するかについては、コルプの経験学習モデルをベースにしていたが、それについての説明もとても分かりやすい内容だった。具体的には、報告書をご確認いただきたい。 そして、スーパービジョンにおいては、バイジーとの関係を形成することが基本になる。その関係を形成するというのは、例えば言語を使ったり、やり取りをしたり、心が近づいていくといったことを思いがちだが、実習などのように初めて会う相手とスーパービジョンをやる場でも、関係性の形成が基本となる。なので傾聴を基本としたスーパービジョンという、バイザー側の姿勢が傾聴型であることが必要だということが、今回私の中でストンと落ちた部分だった。困っている内容を傾聴し、自分で困り事を解決していくことを支援する技術だという説明があったので、なぜ傾聴を使ったスーパービジョンということが今言われているのか、このあたりのことはこれから伝達していかなければならな

	<p>いと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、説明の中で法定研修と実地教育の連動について、現任研修における五つの連携の構成要素(目的があり、そこに複数の主体や役割があり、そこで役割と責任の相互確認をしながら、情報を共有し、連続的な協力関係過程をつくっていくという連携)の図になぞらえて説明があった。法定研修と実地教育を連動させていくということ、また初日の話にもあったが、実地教育をする、研修をつくるということはイコール相談支援をつくるということだという話だったので、その辺りはスーパービジョンの話と一致するような内容だった。 最後に、研修効果をはかるための研究、例えば、東京都で行っている区市町村説明会や実地教育にどの程度効果があるのか、というようなことをはかるための研究が進んでいるという話しがあった。中でも受講者自身が自己評価するもの、あるいは他者評価するもの、あるいは地域の相談員の自己評価について幾つかの話があったので、今後可能な範囲で取り入れていきたいと思った。 実際に今、専門コース別研修でのスーパービジョン、主任研修を担当しているが、まさにスーパービジョンの話をする場なので、今回学んだことを活かしていきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 皆さんありがとうございました。他の皆さんから質問等あれば、お願いしたい。
古橋委員	<ul style="list-style-type: none"> 神作委員の報告の研修の効果測定の話について、必要性を感じたが具体的なやり方の話をもう少し教えていただきたい。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な例として出ていたわけではないが、自己評価をするためのコンピテンシーや、昨年の国研修資料にもあったと思うが、スーパービジョンスキル評価指標というのがある。それはスーパービジョンを実施した際にどのような視点でやることができたかという、スーパーバイザー側が評価をしてつけていくものがあったり、また、謙虚なリーダーシップ尺度、心理的安全性に関する尺度というチェック項目のようなものがあるが、こういったものを使って評価をしていく。 効果については、例えばアンケートを取ったり、人事考課制度などを設けたりするような大きな評価の仕方もあれば、目の前の評価については、こういったチェック項目のようなものができるていて、一つの評価になるかと思う。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 追加で質問したい。今の研修効果の評価については、研修前と後の2段階式なのか、受講後に振り返って、伸びたかどうかという1回式なのか、教えていただきたい。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> 今回の話は、スーパーバイザー側がどんな視点でできたかという意味での評価で、受講者側がどれくらい伸びたかという評価ではないかと思う。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 理解した。そのほか、いかがか。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネジメントコースで近藤先生の話を聞いた感想というのが、去年の私ととてもよく似ているなと思った。去年、私も近藤先生を呼んで勉強会をしてはどうかと提案したが、それについては今後の検討事項となっている。その間、

	<p>近藤先生に教わったこと、初任研のニーズ整理表の整理の仕方などをずっと考えており、「根拠のある推測」というところが自分の中で腑に落ちたので、近藤式を初任研に導入するというのは、東京都がこれまで少しづつ、改良を重ねてきた中では難しいだろうと感じる。どちらもニーズ整理表で、東京都も決してニーズ整理表を使っていないわけではなく、B P S 方式を使っていないということのみ違う。ニーズ整理の仕方に落とし込んでいく方法について、近藤先生に依頼して、さらに分かりやすく伝える方法を学ぶような勉強会等を実施できるといいのかと思った。</p>
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。今の提案については、またチームでも話し合っていただけれどと思う。 ・そのほか、いかがか。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・神作委員の報告を聞きながら、人材育成チームに所属しているということもあって、どのように人材育成をしていくか考えたときに、「どんな経験をさせるかコーディネートする」という部分が、東京都もしくは人材育成チームの役割かと感じた。ただ、今の東京都の研修で、初任研、現任研を受けた受講者が、研修を受けただけではスーパーバイズできるまでに至っていないのが現実かと思う。我々が行っているのは、あくまで研修を受講した人に対して、演習指導者養成研修や、実習説明会、専門コース別研修などの場で改めてスーパーバイズできる人材を育てようとしているが、初任研、現任研を受講した段階で、ある程度スーパーバイズできる人材が育つと、限られた時間の中によりスキルアップできる可能性があるのか、ご意見をいただきたいと思った。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> ・S Vの文化を根づかせていくという話は、前回の国研修の際にも言われて、心に響いた言葉だった。文化として根づかせていくためには、やり続けていく必要がある。ただ、S Vの理論も難しく、また、その姿勢なども考えていかなければならない。S Vの考え方を持てる人たちをもっと増やし、事あるごとにSVの考え方を伝えていかなければいけないと思う。 ・例えば、現任研修でも「事例検討ではありません」という言い方をしていると思うが、事例検討でないならば何なのかということがしっかりと説明できるようなファシリテーターを育てるとか、そういったところがS Vを根づかせていくということだと思う。実習対応者やファシリテーターを育てるることも同様で、少しづつ取り組んでいかなければいけないと思っている。急激に理解者が増えるということは、難しいと思うが、やり続けたい。

(2) 各検討チームからの報告

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・各検討チームからの報告として、各チームリーダーより、第1回検討会から本日までの間の活動状況、今後の予定、この場で検討が必要なことなどについて3分程度で報告いただきたい。 ・まずは、人材育成チーム、稻垣副委員長お願いしたい。
-------	---

稻垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に現任研修の実習説明会を実施し、9月には、初任者研修の実習説明会を実施予定のため、これに向けて取組んでいく予定。 ・取組み内容として、実習対応者のスキルアップについては、実習説明会の中で東京都の目指す相談支援専門員の姿を用いて、研修の全体像、研修一つ一つが点ではなく、つながりがあって地域づくりにつながっていくということも含めて、話をした。また、演指研の受講やスーパービジョンの研修受講の促しも継続する。 ・実習説明会については変更点が二点あった。 ・一点目はデモシナリオの変更。これまでより気づきの悪い受講者という設定に変更し、とてもよく伝わったと思う。実際は気づきが悪い方が多い中で、これまでうまくできすぎていたので、内容を変更したのは大きかった。 ・二点目は、足立区と小平市に実習の取組を発表していただいた。これまでその時間はグループワークを行っていたが、そうすると会議を退出する参加者も多かった。今回は取組の発表だったからか、最後まで参加する方も多く、具体的な質疑応答も活発に行われ、とても良かった。 ・実際、現任研修のA日程が終わった段階で、体感として、実習報告書の内容が少し変わったかなと思った。これまで、記入が少なかつたりした部分に関しては大きな変化があったと実感しているので、これは初任者研修の実習説明会でも実施していきたい。 ・ファシリテーターの育成については、「ファシリテーターとは」という説明を、ファシリテーター説明会の中で演習指導者養成研修のスライドを織り込んで改めて確認の意味を込めて説明した。ただそれに関しては、アンケート等の結果を確認して研修終了後に検証していきたい。 ・また、今後の取組みとして、初任者研修の5日目に今後実習に臨むためのバイジーとしての心構えを説明する時間を設けることになっている。 ・今後の取組みについては、ファシリテーターのアンケートの結果や、演習指導者養成研修の3日目に受講者であるファシリテーターの感想等を確認して、説明を追加した成果を検証していきたい。 ・また、このファシリテーターの養成については、メインファシリテーターのメーリングリストを見ても、取り組まなければならない部分であることは顕著なので、ベテランのファシリテーターへの研修の促しを、今後どのように進めていくのか、この後の時間にも相談をさせていただきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・チームメンバーから補足があれば、お願いしたい。 ・特に無ければ、続いて、サポートチーム、蛭川副委員長お願いしたい。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートチームは、第1回検討会の際の話合いで、令和9年の初任者研修からサポートを復活させるという目標を掲げて、サポートの役割や目的を決めること、研修のどの部分にどのように参加してもらうか、その人数や集め方という検討項目を洗い出した。

- ・2回目の打ち合わせ前には、サポーターが参加していた時代のファシリテーターアンケートから、サポーターに関係する部分を抜粋し、当時のファシリテーターが考えていたことを抽出した。そこから見えてきたことを、報告書の1に記載したが、サポーターの役割というのは今までのご自身の生活や体験を話してもらうためにグループにいるということは共有できるものの、ファシリテーター自身が初心者だった場合、サポーターさんを生かし切れず、ついてこられないサポーターのフォローも不十分になってしまうというところが、後悔でもあり負担でもあるという意見が多かった。なので、サポーターが置いていかれないための工夫や、ファシリテーターの負担を減らすための工夫が必要ということを押さえた上で、枠組みとなる項目を検討した。
- ・サポーターの役割というのはここに記載のとおり。役割は、受講者が、本人中心の支援を理解するということを目的として、そのために、共に考えるグループの一員として参加してもらい、自身の生活や経験を語ってもらうということ、と改めて整理した。
- ・その上で、手伝っていただく人は原則計画相談支援を利用したことがある人が良い。
- ・どのコマに導入するかについては、一案が7日目、二案が3、4日目だった。とても迷ったが、チームとしては、初日に参加してもらうことでその後7日目まで影響を及ぼすことができる、常にサポーターの顔が浮かぶというアンケートもあったので、やはり3日目が良いのではないかという方向に傾いている。ただ、3日目に導入した場合、ワークについてこられるのかという心配が皆さんの中にもあると思う。ただし、今年度から5ピクチャーズをピクチャー順にワークを進める形になったので、そうするとストーリー性も出てきたりすることで理解しやすくなる可能性もあるのではないか。
- ・そもそも5ピクチャーズというのは、当事者と一緒に考えるためのツールでもあると思うので、サポーターと一緒にインパクトゴールを考えるということは、利用者と一緒に考えるということにもなるのではないか。なので、サポーターには感想を言ってもらうということを中心にして、サポーター用の資料や、ファシリテーター用のQ&Aを準備したりするということで3日目に入つてもらうという方向性でよいか、皆さんにもご意見いただきたい。
- ・また、サポーターの人数としては、3日目に1グループに1人参加となると、93名必要のこと。精神・身体・知的で単純に割っても、それぞれ30名ほどになるが、この人数を集め切れるのかという懸念もある。「どんな人に」という部分で、体力のある方には複数日程参加してもらうなどの工夫もできれば93人より少なくできるかもしれない。皆さんの周りで協力してくれる当事者の方は、何人ぐらいいるかもご意見いただきたい。
- ・そこが固まれば、本日は報告書の⑤から⑦辺りも含めて、具体的なサポーターの入り方や、ファシリテーターに必要なことを検討していきたい。

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・チームメンバーからの補足等あるか。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・補足というか、サポーターのグループワークへの参加の仕方について、蛭川副委員長からも説明があったが、おそらくグループワークの中で一緒に考えてもらう、流れに乗ってもらうことは、かなり厳しいと思う。そうではなく、要所要所でファシリテーターが例えば、「こんなことを聞かれたらどう思いますか」とか、「こんな提案をされたらどう思いますか」とか、グループワークの中で投げかけをして、それに対しての感想を言ってもらうことであれば、それほどハードルは高くないのではないかという話。そのため、ファシリテーターの投げかけする力が必要になるが、これは多分、演習指導者養成研修のほうでしっかりやっていただけると思う。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それを補足するためのQ&Aのイメージでもあるので、それほどは負担が増えないようにはしたい。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・こういったところでも研修同士の連携はつくれると思うので、よろしくお願いたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・他に意見を聞きたいことがあるか。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターチームのメンバーとしては今お伝えしたことを考えているが、皆さんの意見をいただきたい。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・3日目で本当に大丈夫かどうか、心配のポイントなどあれば聞きたい。
古橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・横田委員が発言したことと、全く同じことを考えていました。 ・江戸川区での研修に、ピアサポーターに参加してもらう際、同じ課題が出た。ワークの進行や意味等には追いつかなくて良いので、要所要所で感じたことを語っていただくというやり方をしていた。初任者研修でも同様にできると良いと思う。今の話からどんな感情を持ったか、また、どうしてそう思ったか理由も添えてもらえるとより良いのではないかと思った。 ・また、3日目への参加については、私も3日目が良いと思っている。その場と人に慣れることができるということが、中身を知っておけるということよりも大事だと思う。ただ人数については、これだけ集めるのは本当に大変なので、どうしたら良いかと思っている。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・古橋委員がつながりがある方だと何人ぐらいになりそうか。
古橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川区でピアサポーターの養成研修修了者が、おそらく30名程度いると思うが、その方たちのうち協力してくださる方は絞られてきて20人から30人程度かと思う。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地域はどうか。
修理委員	<ul style="list-style-type: none"> ・杉並区はピアサポーターの養成講座は、委託の相談事業所が専門で行っている。そこで活動する方も増えたが、活躍の場がないということを最近よく聞く。ただ、人によっては杉並区を出るのが難しいという方もいるのと、知的障害と精神障害の方が多い。もし、大々的に募集するということであれば、区か委託の相談支援事業所にお願いをして、ピアサポーターにぜひ活躍してほしいと声か

	<p>けできるかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ちなみに、相談支援部会や協議会にピアサポーターさんが委員として参加るのはストレスがあるが、スポットで調子が良ければ参加するような形で、グループ討議に入つてもらうような試みを今している。そうすると、10人弱程度は参加していただけてるので、タイミングがあれば、そのような活躍の機会があるとありがたい。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> 昨日、地域移行体制整備事業の圈域別会議で、報告があったのは、板橋区にピア活動している地活があつたり、北区でも数年前からピアサポーターの養成講座を行つていたりすること。そういったところへ声をかけるのも一つかと思った。
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 素朴な質問で申し訳ないが、対象者の方は原則、計画相談支援を受けている方と書かれているが、例えば、私は当事者で相談支援専門員をやつているけれど、ファシリテーターをやる日程とは別の日程でピアサポーターをやるのはどうだろうかということと、もしそれが可能であれば、ファシリテーターとサポートーの一人二役だけはやめたほうがいいというのは個人的には思った。あくまでも、人数が不足した場合の、最後の保険としてどうかと思った。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> 今までファシリテーターを担つていた障害当事者の中にも、負担が大きくなつてきて、ファシリテーターまでやれないという方はいたと思うので、そのような方にスポットでサポートーという役割を担つてもらうのも良いと思うし、これまでファシリテーターをやつたことがないという若い当事者には、サポートーとしてぜひ関わつてもらい、次のファシリテーターも育てていけるような機会になればいいと思う。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> 意見を言える方や考えて発言できる方はいらっしゃると思うので、ピアサポートー講座を受けていなくても、ぜひ知的障害の方にもサポートーとして参加していただきたい。 ただその場合にはファシリテーターがどのように意見を拾い、どう生かせるか、サポートーとファシリテーターの組み合せが限られてくると思うので、ハードルが上がるかもしれない。
芝委員	<ul style="list-style-type: none"> 現在、初任と現任で使用している架空事例のケースが愛の手帳3度の方という設定なので、そのような方にどのように質問したら良いかというところもサポートーが参加する意味になると思う。 足立区からは何人くらい参加できるか考えながら聞いていたが、以前はおそらく法人内で声かけしたのみだった。足立区内に声かけすればもう少し増えるかと思う。
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> 渋谷区でのピアサポートについての取組は、自分も分かっていない部分があるが、自分の事業所内や担当するケースを考えると、何人か候補に挙がる方がいる。実際、地活でのピアの担当者に関わっている中で、自分もあんなふうになりたいとか、話してくださいの利用者さんもいるので、こういう機会を心待ちに

	<p>していたり、ぜひやりたい、という方が何人かいると思う。ただ、急になると不安があるので、「こういうフォローがあるから大丈夫だよ」等の安心材料があったり、説明がきちんとできれば、やってくれる方はいると感じた。</p>
稻垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターの力量も関係してくるということに関しては、今後、芝委員とともに、演習指導者養成研修の内容についても考えていきたい。 ・私は障害児の相談支援を普段担当していて、夏休み期間、例えば高校3年生の子たちがジョブチャレンジ等で、私の事業所に来てお手伝いをしてくれたりしている。そういったお子さんが、受け答えの練習をするとか、社会勉強のためにサポートとして参加するとなると、かなりの人数になると思う。 ・様々な方から質問の受け答えをする場となれば、面接の時期を行っている時期なので、お互いイーウィン・イーウィンでできないかと思った。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・その発想はなかった。確かに、これから就職を目指している、高校3年生の生徒さんにはすごくいい体験になるかもしれない。ありがとうございます。
古橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように集まつてもらうのか、少し自由に考えたが、例えば自分がファシリテーターを担う際に、ふだん支援をしている、ピア性が高い方と一緒にペアで参加すると、ファシリテーターのスキルの問題ではなく、そもそもものの関係性があるので、サポートの様子や変化にも敏感になれるし、強みをうまく引き出せるのではないか。また、そうすると、多くの方に協力いただけるし、双方に無理なくできるので良いのではないかと思う。ちなみに自分も何人かそういう方が思い浮かんでいます。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。特に知的障害の方と、私も東京都手をつなぐ育成会の利用者の方々と時々お話をすると、初めての人の前だと寡黙になる方が多いので、今、古橋委員からご提案いただいた方法は、人によって有効だろうなと感じた。 ・では、この後は、内容整理チームの高江洲副委員長からお願いしたい。
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・内容整理チームは、前回の1回目の検討会以降、四点の事項の検討をした。 ・一つ目は、昨年度から引き続き、目指す姿の行政用の資料。完成したものが資料2-2となる。Ver. 9にするという話もあったが、最終的にはVer. 8の上にけるものとして、「相談支援専門員の役割の紹介」という名称にした。 ・この資料の活用時期としては、今年度の初任者研修の説明会の際に配付し、区市町村の職員や拠点機関向けに説明をすることになっている。まず、市区町村の職員や基幹相談支援センターの中で活用してもらい、その後、地域や医療関係、教育関係など他機関に活用してもらえることを期待している。 ・続いて、補助教材については、昨年度、初任者研修のファシリテーターの方々に5ピクチャーズや、ニーズ整理の動画をYouTubeで限定公開し、視聴してもらえるよう作成したが、今年度は初任者研修の5ピクチャーズの手順が変わるために、補助教材をこのまま使用すると混乱を招く可能性があるということで、今年度は補助教材は作成しないこととした。今後どうしていくかはチ

	<p>ームで検討するという結論となつた。ただ、演習指導者養成研修受講者に向けては、演習指導者養成研修1日目の動画は配信することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 三点目の地域調べの資料について。初任、現任、主任とおして一つの資料を使用しているが、主任研の内容に応じた、内容を調整していくという話が、課題として挙がっていた。ただし、主任研修は今年度の内容がまだ詰まっていないとのことなので、決まり次第どうするか検討していくことになった。 四点目は、共通事例について。昨年度、モニタリングの部分等を変更したが、現任研修の研修教材の部分で、事例の内容と合わなくなってしまい、事務局でいったん変更したということと、現任チームで振り返りシートの文言を少し変更したということを報告する。昨年度までは、相談支援専門員として、これまでできしたことということだったが、それプラス意識してきたことを追加したのと、その横の枠の「Aさんとの関係性」という、関係性や、相談支援専門員としての課題というところを文言に追加した。 ご意見をいただきたいのは、相談支援専門員の役割紹介の資料は完成したので、効果測定の方法、これを活用して、どうだったかということを把握できるような方法やアイデア、他の活用法があればいただきたい。また、受講者へ配付するかどうか意見をいただきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございました。ご意見があればお願ひしたい。資料の効果測定のアイデアとは、どのような効果があるとうれしいという、見通しはあるか。
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 内容整理チームでは、もともとは市区町村の職員が福祉分野でないところから異動してきた際に、相談支援専門員がどんな人か、どんな役割があるのかということを知る材料として見てもらう。またそれを、部署内、庁舎内で広めてもらったり、地域の方々や他機関の方々に伝えられるようなものとして作成したということが一つと、現役の相談支援専門員が、様々な他機関の方々に、「私はこういうものです」と伝えられる資料としてもいいのではないかということもある。色々考えられるが、説明会や検討会の皆さんもううですし、ファシリテーターや受講者がこの資料をうまく活用できたかどうか、どこも集約できない。自然に理解してもらえば一番良いが、集約の仕方までは作成時には考えてていなかつたので、あったほうがいいのか、なくてもいいのか、あった場合どういったことが考えられるかを伺いたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。この効果というのは、役割紹介の紙をもらった新任行政職員が、これで相談支援専門員の役割が分かったかどうかという効果なのか、相談支援専門員がこれを渡したときに、関係がよくなったとか、仕事がちょっとスムーズに行くようになったような気がするという効果なのか、どういう狙いか。
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 行政職員が相談支援専門員の役割ってこういうなんだと分かった、という効果が第一段階であって、第二段階としていろんな人に伝わったよということが分かればいいかとは思う。何か補足あればお願ひしたい。

修理委員	<ul style="list-style-type: none"> 効果測定についてだが、作成したはいいが、これを説明会だけで終わらせてしまうのかという話があり、せっかく作ったのだからもっと活用したらいいし、説明会以外でも使えるのではないかと。ただ、これを広める方法が現時点では思いつかない。どこかにアップしてどうぞ使ってくださいとしてもいいが、結局私たち検討会委員や、研修チームのメンバーから口コミで広がっていくという感じではなく、もっと使い方はいろいろあるのではないかという意見もある 今後のプラッシュアップについて意見がいただける機会もあったらいい。まずは前段のどういったところで活用ができるか、広める方法はないか、アイデアをいただきたいと話していた。効果はその次の段階でぜひ共有したい。
古橋委員	<ul style="list-style-type: none"> 期待していることは二つある。 一つは、これを受け取った行政の方が、どんな場面で活用できそうと思ってもらえるのか、知れたら良いのではないか。行政の方たちがこれを活用していくたゞく場面が想像し切れていないところがあるので、今、修理委員が言ったことに同意する。 また、その中で、相談支援専門員ってこんなふうに分からぬとか、混同しているとかあると思うので、その中のニーズのようなことも併せて知れるといいと考えている。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。これまでの話を踏まえて、ご意見いかがか。 これをやるのが良いか悩むが、各自立支援協議会で宣伝してほしいと依頼する、聞いてみるというのもあるかもしれない。自立支援協議会は真ん中にあって、無関係ではないので、私の参加している会であれば聞けると思い、発言してみた。
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> 行政の方、福祉畠ではない方が異動してきた場合を想定しているという話もあったが、例えば福祉を今、実際に学んでいる学生が、実習で来ることがあると思うが、そのような方に配布して、学生でも分かるかどうか聞ければ、それはつまり、福祉を知らない人にも分かりやすいものにできるのではないかと感じた。
古橋委員	<ul style="list-style-type: none"> これまで、多くの方たちと作成てきて、現在の内容整理チームのメンバーで最後決定をするという、プレッシャーのかかる判断をしたので、ぜひ感想や意見を頂戴したい。
稻垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 当時のものは大きく変わってきたが、率直に思ったこととしては、相談支援専門員は、書類を作ることが仕事ではなくて、地域をつくるんだという話をいつもしている中で、説明するためにはとても便利だと感じた。 また今、実際に現任研のメインファシリテーターを担う中で、受講者には「相談支援専門員の目指す姿」を何回も見てもらっている。その中でも地域課題の解決や地域づくりにもつながっていくので、もちろん相談支援専門員を知らない人に渡す必要もあるけれど、研修等を通じて相談支援専門員にもきちんと配付をして、「行政の方々にこういう説明をしています。あなたたちの役割はこう

	<p>「ということなんです」ということを伝える必要もあるかと思う。特に下の網かけ部分の、「一人ひとりのニーズが地域のニーズであることを知っています」というのは、まさに現任研修の4日目に出てくる文言でもあるので、もちろん行政向きにも必要だが、相談支援専門員にも、あなたの役割はこうですよという意味も伝えるためにも必要なのではないかと思った。このように仕上がったことが感慨深い。</p>
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・同じく、このようにまとめていただきありがたい。 ・私は自身も、親に「どんな仕事をしているのか」と聞かれて、返答に詰まるので、そのような時に活用したいと思った。 ・作成時にこだわっていたのが、権利条約からスタートして、相談支援専門員は障害者の権利を守り、一緒に伴走していく人だということを伝えたかった。この部分を入れることで分かりづらくしているのか、それともここからスタートしているということも伝えられるのか、迷いながら2年間かけて作成してきた。何度も読むにつれ、よくまとまっていると思うので、どう活用するか考える必要がある。 ・役所の窓口に置いても良いと伝えて、実習説明会の際に、行政の方に渡す。 ・効果測定は難しいが、ケアマネジャーは分かってもらえているのに、相談支援専門員は名称が長いせいか、相談員と略されて、色々な相談員と一緒にになっている部分もあるので、そこを説明するための資料として活用する。目にしてもらえる場に置いてもらい、その後、「相談支援専門員って何」と言われなくなるのに何年かかるか、そういう効果測定がいいかと思う。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、特別支援学校に通う17歳の本人と母親が私のところに相談に来た。なぜかというと、特別支援学校の先生から、卒業に向けて取りあえず相談支援事業所につながっておいたほうがいいと言われたからということだった。特に印象的なのは、「私は今、何をしたらいいか」という母親からの質問だった。やはり、卒業に向けてこれから新しくサービスを使うとか、自宅を離れてご本人が地域で自立していくときに、どんなスケジュールで、いつまでに何をやらなければいけないかということを、知らない本人、親がたくさんいる。学校もそこまで説明せず送り出すので、相談支援専門員という人は誰かという話しから始めて、「この時期にこういうことをやりましょう、こういうふうに進めると、この時期に合わせてサービスを使えますね」ということを話した。 ・今回、行政の新しく異動してきた方向けに作られているが、そういった学校で親や本人に説明するときのように、相談支援専門員を知らない方がぱっと見て、自分がどの段階にいるのか分かるものであると、自分でも使用できると思った。
古橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の話を聞いていて、10月から就労選択支援が始まることで、そういう場面がいよいよ増えてくる。急に高校2年生ぐらいで相談支援専門員という人がいると言われて一度会い、次に会うまでにまた時間が空くというような、不思議な人になる。相談支援専門員を知っていてもらいたい時に残すという意

	味でも、見て分かるものというのが改めて必要になると、今藤田委員の話を聞いて思った。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・効果測定までは行き着かなかつたが、活用方法についてのアイデアはたくさん出た。 ・そして、稻垣副委員長から皆さんの意見を聞きたいと言われたことが取り残されたまま先に進めてしまったが、資料2－1の2ページを見て、改めて、意見が欲しい事項を稻垣副委員長から説明をお願いしたい。
稻垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、③について、初任研の5日目に、受講者であるバイザーに実習に臨む心構えを話してもらう提案をしてもらうということ。 ・また、ファシリテーターの質という言葉がよく出てくるが、その目指すレベルがどこなのかが曖昧なので、そのすり合わせをしたいということと、経験の長いファシリテーターのスキルの向上に向けて何をしたら良いのかということ。 ・また、研修スライドについて、時間をかけて作成した進行スライドが、メインファシリテーターの厚意ではあるが、もともとのスライドとは異なるものが差し込まれていたりすることで、演習指導者養成研修受講者であるファシリテーターから戸惑いの声が上がることがあるので、そのことについて一定のルールが必要なのかななど、後ほどチームで話し合わせた上で意見をいただきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターの目指す質のレベル感のすり合わせをしたいことと、ベテランのファシリテーターへの働きかけという2点について意見が欲しいということだがどうか。
稻垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・この後、チームでの検討で詰めてから提案することでも良いか。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、そのようにしたいと思う。 ・それでは、事務局から研修ごとのチームの報告をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まず現任研修チームは、昨年同様、会場にてファシリテーター説明会を実施。日程ごとのポイントやワークの進め方について説明後、グループワークを行つたが、演習指導者養成研修の受講者を中心に、ベテランのファシリテーターが丁寧にフォローをしていただいたことが印象的だった。 ・また、人材育成チームとして課題として挙げられていた、ファシリテーターのスキルアップに向けて、ファシリテーションに関する講義を盛り込んでいただいたのは、先ほどの稻垣副委員長の報告のとおり。演習についてはD日程まで終了しており、9月にはチームの振り返りを実施予定。 ・演習指導者養成研修については、6月10日に1日目を実施。昨年同様初任コースの芝委員の午後の講義を9月下旬頃に演習指導者養成研修受講者向けにYouTubeで限定公開する予定。また、現任コースの最終日については8月26日に実施予定で、現在、稻垣副委員長に準備いただいている。 ・初任者研修は前回の検討会後、2回の打合せを実施。また、講義動画について7月8日に3本再撮影した。蛭川副委員長、初任チームの八王子市基幹相談支

	<p>援センターの光岡氏、町田ヒューマンネットワークの堤氏に登壇いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修教材について、チームから既に提出されたものを、事務局で校正中。8月22日までに進行スライドの作成をお願いしている。 ・今年度からは研修3日目、4日目で使用する5ピクチャーズについて、演習の進め方を変更する方針としたことから、チームに負担をかけている状況。 ・9月にファシリテーター説明会、10月7日より演習開始予定。 ・専門コース別研修1、障害児支援は、月1回程度の打合せを重ね、プログラム及び講師がおおむね決定した。サビ管、相談支援専門員、両方が納得できて学べるものとすることで、テーマは普遍的でありながら、ハードルは高く、担当の稻垣副委員長にご負担をおかけしている。今後資料を作成していただき、11月に動画の撮影、2月頃配信の予定。 ・専門コース別研修2について、8月4日に最終打合せを実施、資料の最終調整や当日の進め方の確認を行った。今年度は、スーパービジョンの講義とロールプレイのほか、講師陣によるクロストークも行い、地域の相談支援専門員の視点に近い形での研修を実施する予定。申込み状況については、昨年と異なり地域実習に対応する前提とすることを前面に打ち出したため、定員を下回り30人が受講の予定となっている。 ・主任研修は、チームの打合せを既に4回実施し、国のシラバスに基づいて、東京都版のシラバス作りを行った。また講師について、チームの皆様から、今打診をしている。今年度は新たな扱い手に声をかける方向だが、各事業所の状況等もあり、苦戦している。
--	---

(3) 各検討チームの話し合い

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここからはチームごとの話し合いをお願いしたい。 <p>(人材育成チーム・内容整理チーム・サポートチームに分かれて討論)</p>
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームリーダーから話し合い内容と質問事項を1分程度でお願いしたい。 ・まずは、サポートチームお願いしたい。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートチームは、先ほど皆さんからご意見いただき、目的、役割、依頼する対象者など話した。どこに入つてもらうかについては、3日目で良いのではないかとチームでは決めており、人員も皆さんの感触から大丈夫そうではないかと考えて、1グループに1人の方向で今後考えて、詳細を詰めていくということを3人で共通認識とした。 ・今年度は、枠組みを決めて、来年度は実際にサポートが入ることを見越した演習ノートを作成したり、ファシリテーター説明会や演指研で、令和9年度にはこのような形になるというアンダウントを入れさせてもらったりする方向。また、サポートQ&Aの作成や、可能であれば実際にシミュレーションするようなことも来年度できるかなと話した。 ・今年度やることはあまり具体的でないが、ファシリテーターの協力は不可欠な

	ので、今年度の初任研のファシリテーターに、身边に一緒にやりたいサポートーがいないかアンケートをしてみると、ファシリテーターの推薦、特に知的・身体の方の推薦ができそうか、アンケートに載せられないかということを、今後決めていきたい。オンライン日程の場合どうするかも決めてから、来年を迎えるようなスケジュール感を話し合った。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、内容整理チームお願いしたい。
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・内容整理チームは、相談支援専門員の役割の紹介の資料が完成したので、今年度の初任研の実習説明会での配付や説明の内容について検討した。当日の説明については、事務局にお願いをすることになるので、スライドの読み原稿をチームで作成することになった。内容的には大まかに、相談支援専門員とはこんな感じの人というところを伝えた上で、各地域の相談支援専門員はこういうことができる、できない、ということを伝えられるような説明にしたいと思う。 ・補助教材については、今後検討する予定。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・人材チームお願いしたい。
稻垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、実習説明会の時間を15分長くすることになった。 ・先ほど話したファシリテーターの育成や教室スライドの変更の件については、次年度に向けて提案をしていく予定とした。予習してきているファシリテーターの戸惑い等もあるので、教室スライドの大きな変更についてはある程度ルールを設けることを次年度に向けて検討していきたい。 ・経験の長いファシリテーターへの取組については本日話しきれなかったので、今後、演習指導者養成研修、現任研修のアンケート等を踏まえて、次年度に向けて考えていきたい。 ・もう一つ、皆様に協力いただきたいことは、初任研の実習説明会の際に、自治体の取組発表を、二自治体にお願いをする予定。1か所は中央区で受けたいが、市部で協力いただきけるところはないだろうか。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・喫緊に市部に取組発表をしてくれるところはないだろうか。
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・調布市はいろいろやっているのは聞いているが、かかわっていない。八王子であれば、取組を基幹に聞いてみる感じか。
修理委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現任チームで、今年国研修も行ってくださった東大和の田中さんは、市部のマシンパワーがない中でも取り組んでいるというのを聞いているが、どうか。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・候補を幾つか挙げていただき、ありがとうございます。 ・他にチームに聞きたいことはないか。
各委員	(意見なし)

3 閉会

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。準備した検討事項は以上となるので、事務局へお返しする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川委員長、皆様、ありがとうございました。

- ・次回第3回検討会は、12月15日月曜日の14時から16時を予定している。会場は、本日と同様。
- ・この後第3回検討委員会までの間に、本日の議事録要旨案を事務局で作成し、皆様に確認をお願いしたい。
- ・本日の検討会の議事録の要旨につきましては、いつものようにメーリングリストで確認をするので、協力をお願いしたい。
- ・以上となる。検討会へのご参加、ありがとうございました。お疲れさまでした。